断熱工事

ここでの監理者の心構え

木工事の進行中に断熱工事が行われる。主に外壁や屋根、天井裏、床下部分となるが、連続性が必要で、断熱が途切れている誤りが見受けられる。ロフト、造り付けバルコニー、2 階が跳ねだしている、下屋がある場合は特に、断熱性の連続性と外気から守られているかを確認する必要がある。細かい部分まで断熱材を正しく施工することで、実質的な断熱性能に大きな差が出ることを知っておくべきである。施工の精度で机上の性能が確保されるかどうかが決まる。ここでの断熱は、内部充填及び現場発泡断熱に関して、チェック事項を記載する。

工事名		工　期	年　月　日（　）
		監理責任者	

項目	ポイント	✓	チェック項目
施工前	参考写真①、②	☐	断熱材と取り合う部分の電気配線工事は完了しているか
		☐	断熱材と取り合う部分の給排水管工事は完了しているか
		☐	キッチンの換気扇ダクトの不燃巻きは完了しているか
		☐	屋根断熱の場合、通気確保の作業は完了しているか
断熱材の仕様	参考写真③～⑦	☐	床下の断熱材の種類･厚さを確認する
		☐	外壁の断熱材の種類･厚さを確認する
		☐	屋根の断熱材の種類･厚さを確認する
		☐	天井の断熱材の種類･厚さを確認する
断熱材の取付け状況	参考写真⑧～⑲	☐	外気に面する場所に隙間なく充填されているか
		☐	断熱材と部材の隙間がないか、あれば充填されているか
		☐	1 階床面、間仕切やパイプスペース、配管などに隙間はないか
		☐	サッシ枠廻りに隙間なく充填されているか
		☐	内部土間廻り（玄関）の基礎パッキン部隙間に充填されているか
		☐	細かい柱間の隙間なども、現場発泡断熱材が充填されているか
		☐	壁断熱材のレベル合わせについて、不十分な場所はないか
		☐	勾配天井部分のレベル合わせは行われているか
施工後処理の確認	参考写真⑳	☐	仕上材などに断熱材が付着していないか
		☐	現場に廃棄物が残されていないか
		☐	電気配線などは傷ついていないか

メモ